



no.7

子どもたちとの関わり

コスモスと保育園に通うことに決めた日の朝、とても不安な気持ちでいっぱいでした。上の娘は通う3日前まで他の幼稚園に通っていました。制服を着て、汚れることなどない毎日。外遊びもほとんどなく、室内での制作やおけいこをして日々過ごしていたようです。それが、どろんこ？カッパを着て散歩！？雨なのに外遊び？1時間以上の散歩？？私の中ではありえない保育でした。また、上の子が通う幼稚園の未就園児のサークルに2度ほど通い、息子と他の子どもとの違いに気がついていましたし、息子の行動や様子を冷ややかな眼差しで見ている先生やお母さん方の対応を感じていました。新しい環境、新しい輪の中に入ることが嫌で仕方ありませんでした。でも、「子どもたちの為に…」と自分に言い聞かせて、保育園の門に並んだ瞬間…「誰のお母さん？」「何組なの？何オ？」と目をキラキラ輝かせた子供達が周りによってきてくれました。「お姉ちゃんはうさぎさん、弟は大きいしさんだよ。今日からよろしくね」と私が言うと、さっと娘の手をつないで「こっちこっち」と連れて行ってくれました。すぐに早番で園庭にいた先生が「〇〇ちゃん、おはよう。〇〇くんおはよう」と子供達に話しかけてくれました。娘の手をひき、息子を抱っこし、布団やらバスタオルやらたくさん荷物を抱えて門の前に立って、園庭を通り、玄関に辿り着くほんの1～2分の間ですが、ここに来てよかったと感じました。荷物と同じくらい、様々な思いを抱えてコスモスに来た私でした。重い気持ちも足取りも忘れて玄関に立ったことを今でも忘れられません。「コスモス・保育園との統合保育も素晴らしいのですが、何より感動するのは、子供達の関わりです。コスモスの子供達を仲間として受け入れてくれて、常に誰かが息子のことを引っ張っていついてくれているのです。息子はコスモスの療育が終わり、保育園内での伝承遊びに行くと、先生方の目を盗んではマットにとびのったり、走り回ったりしているのですが、同じクラスの男の子たちが息子にちゃんと座れと連れ戻してくれるのです。しかも、息子を連れ戻すのを誰がやるかでモメたりしているのです。もちろん親としてはお利口さんにちゃんと一人で座ってくれることが望ましいのですが、息子を追いかけ回す子ども達の姿、目頭が熱くなる思いです。他人を受け入れることのできなかった息子が周りの子供達をみてまねっこしたり、今はこうする時だと感じている姿がとても嬉しく感じられるのです。

園長先生に「ここの子供達って素晴らしいですね。子ども達の関わりって大切なんですね」とお話ししたところ、「いい集団に入れなければ、どんなに療育をしても子供の心は育たないの。いい集団はいい子供達が作るの。いい子供達は、先生方・親御さんたちが作るのよ。私は先生方をいつもいつも怒ってばかりだけど、子供達の為を思っていること。それが先生方に伝わっているのかな？何を誉められるより、子供達が誉められるのが一番嬉しい。」とおっしゃっていました。

子供たちに関わるということを難しく考えすぎてしまう時があります。日々悩んだりしますが、コスモスでの母子通園で多くのことを学ぶことができます。問題行動があった時、どんな風に対応すべきかその子によって違いはあるのですが、先生方の関わりを見て自宅に持ち帰り実践してみたりします。でも、もう少し気持ちを大きく持って子供たち同士の関わりから杓子定規ではなく、楽に楽しく関わっていきたく感じます。

話は少しそれますが、先日学童さんがカブトムシを見せ合って喜んでいました。「わあー大きいねー。」と話しかけると、2、3人の男の子達が寄ってきて、クワガタやらたくさん見せてくれました。「これ、どうしたの？自分達で見つけたの？それともお店で買ったの？」その答えに、「ダメダメ、店で買ったのなんか弱くてすぐに死んじゃうんだ。オレは散歩の途中で拾ったんだ。」子供達が一番

本当の強さを知っているのだろうなと感じました。自分の力で土の中から這い上がり、自分の力で脱皮した虫は強い。コスモス、保育園の子供達からも同じ強さを感じます。

文章はそのまま掲載しています。

今日も子供達は土ぼこりにまみれ、泥を頭からかぶり、お日様いっぱい浴びて遊んでいます。全ての子供達が本当の強さを知り、生きる力が身につきますように願ってやみません。